



学校だより



令和7年9月1日
9月号
調布市立第一小学校
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> Tel.042(481)7636

夏の成長

校長 樋川 宣登志

長い夏休みが終わりました。

この夏は、酷暑や大雨など自然の苛烈さに驚かされましたが、子どもたちはたくさんの体験と思い出を胸に学校に戻ってきたことでしょう。

さて、夏休み前半に、ある記事を見付けました。

「子どもの成績に『こだわらない』親が増加」
という見出しです。それは、文部科学省による保護者に対する調査(*1)の報道でした。それによると、「学校生活が楽しければ、良い成績をとることに『こだわらない』と考えているか」の問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた保護者が小6保護者で約6割と、初回調査(2013)より約5ポイント増えているということでした。この変化にはどんな意味があるのでしょうか。

子どもの成長を願わない親はいません。賢くなしてほしい、生きる力を身に付けてほしいと願っています。ですから、「成績にこだわらない」ということは、子どもにとって大切な「力」や「成長」についての考え方が変わってきたのかもしれない。

現在、そしてこれからの時代は「変化の激しい時代」と称されます。その変化には、知識だけでは対応できないといわれます。また、自分だけでなく周囲の人や環境を含めて考えることが、本当に豊かな社会や人生につながるともいわれます。

そのような時代に必要な力について、近年、「非認知能力」という言葉が注目されています。国語や算数のテストなどで測ることのできる学力(認知能力)と対照的に用いられる言葉です。数値化や可視化が難しい力であり、意欲や協調性、粘り強

さ、自制心、創造性、コミュニケーション能力などが挙げられます(*2)。定義も範囲もまだ定まりませんが、多くの識者がその大切さを唱えています(*3)。

これらの力は、教えられて分かることでも、短期間ですぐに身に付くものでもないだろうことはわかります。どう取り組んでいけばいいのでしょうか。

学校では、体験をともなう学習、友だちと一緒に取り組む活動、自分の目標・目的をもって調べたり、上手くいかないときに計画や方法を修正したりする活動などが大切だと考えられます。いま、授業では、みんなで話し合っただけで考えたり、目標に向けて考え方や方法を修正してあきらめずに取り組んだりする活動などを大切にしています。

家庭ではどうでしょう。家族で話したり楽しんだりすること、子どもの興味を大切にすること、くじけそうなときに共感し励ましてあげることなどが考えられます。人との出会いも大切な経験です。まさに、夏休みの経験が、「目に見えない力」につながっていくことでしょう。

この夏に、時間をかけて蓄えた元気と力を次の成長につなげることができるよう、2学期の授業や行事に取り組んでいきます。

*1)「R6 年度 保護者に対する調査」(文科省)小6・

中3保護者を対象に、家庭状況と児童生徒の学力等の関係について分析するために実施。

*2) OECD による非認知能力の定義:「長期的目的の達成」

「他者との協働」「感情・情動を管理する能力」

*3) アメリカ人・経済学者のジェームズ・ヘックマン教授

(ノーベル経済学賞受賞者)などが提唱。